

## 竹田市を流下する玉来川および芹川のかわまちづくりの住民意見についての分析

日本文理大学 学生会員 ○瀬川 礼野  
正会員 中西 章敦

### 1.はじめに

“かわまちづくり”とは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組で、全国 244 箇所で開催されている。

2021 年現在、大分県では竹田市で玉来川と芹川の 2 つの河川でかわまちづくりが進められている。同時期に同じ市内で複数のかわまちづくりが進められている例は多くなく、地域性や事業実施時期によるトレンド等の影響を受けることなく、かわまちづくりの本質や、住民意見の傾向を得ることが可能であると考えられる。

本研究では、かわまちづくりが進められている竹田市の玉来川と芹川の 2 つの河川において、かわまちづくり検討会議で出された住民意見をもとに、住民のかわまちづくりに対する意見や考え方の特性を得ることを目的とする。

### 2.研究方法

研究対象とする河川(図-1)は、大分県竹田市を流れる一級河川大分川水系芹川(図-2)と一級河川大野川水系玉来川(図-3)の事業実施区間とする

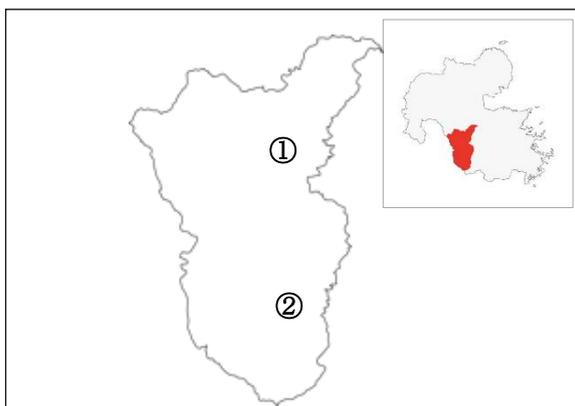


図-1 ①芹川, ②玉来川位置図



図-2 芹川かわまちづくり実施区間



図-3 玉来川かわまちづくり実施区間

研究方法について、芹川かわまちづくり検討委員会ワーキンググループ、玉来川かわまちづくり検討委員会ワーキンググループそれぞれの会議内で出されるかわまちづくりに対する意見を取りまとめ、テキストマイニングを用いて分析を行う。

テキストマイニングにおいては「KH Coder3」<sup>2)</sup>を用い、芹川、玉来川それぞれの頻出語句、クラスター樹形図、共起ネットワークについて分析する。得られたデータから、かわまちづくりにおける住民意見の傾向と特性を把握する。

### 3.結果および考察

頻出語の上位10語については、芹川では「川」「湯」「作る」「欲しい」「場所」「観光」「自然」「周遊」「良い」「遊べる」、玉来川では「作る」「スペース」「出来る」「駐車」「広場」「管理」「芝」「設置」「良い」「車」となっている。共通する語句は「作る」「良い」、10位以下も含めると、「欲しい」「川」「管理」「草刈り」等の語句が挙げられる。その他ではそれぞれ芹川では温泉や観光を想起させる語句が頻出、玉来川では隣接する文化施設や公園の利用や空間としての河川利用が頻出しており、それぞれのかわまちづくりの内容を想起させる語句が頻出している。

次に芹川、玉来川のクラスター樹形図を図-4に、芹川の共起ネットワークを図-5に、玉来川の共起ネットワークを図-6に示す。クラスター樹形図についてクラスター毎に色分けし、共起ネットワークとあわせて芹川では上から「集客」「利活用」「散策」「問題点」「景観」「拠点化」「保存」と、玉来川では、同様に「施設アクセスの向上」「視距」「管理」「周回」「水質の向上」「導水施設」「イベント」「利活用」と推測した。共通のものとしては利活用、同様の内容で散策と周回などが確認できた。

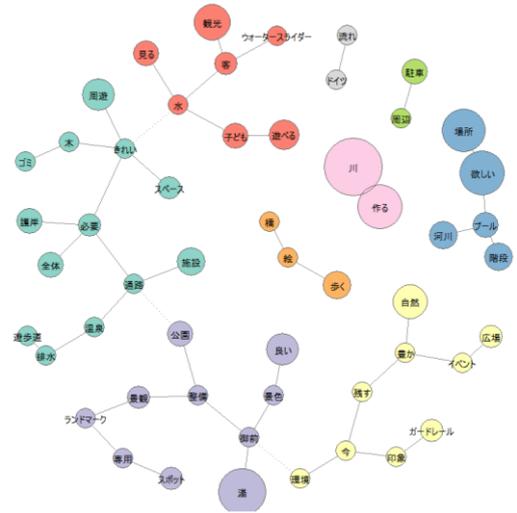


図-5 芹川 共起ネットワーク

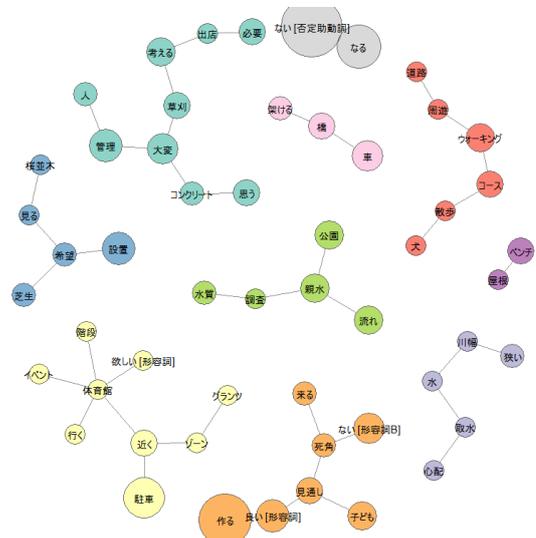


図-6 玉来川 共起ネットワーク

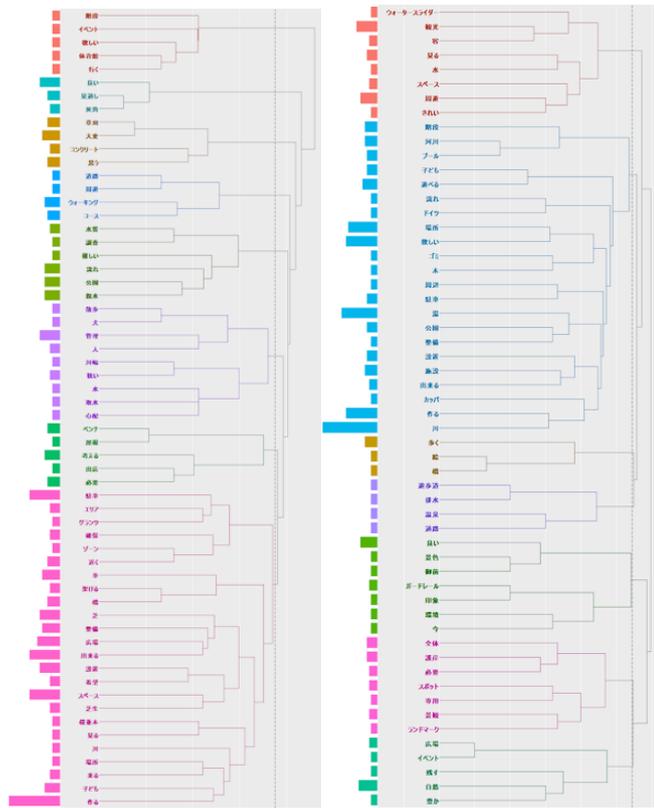


図-4 クラスター樹形図 (左：芹川・右：玉来川)

### 4.結論と今後の課題

竹田市のかわまちづくりにおける意見の分析を行った。出された意見から頻出語を分析、クラスターに分類できた。「川」「管理」「欲しい」などはかわまちづくりに限らず公共事業への希望の頻出語句であるが、その他は個別のかわまちづくり、地域性に依存する語句や内容が多く見られた。今後は同様に多くの辞令を含めた分析を行っていく必要がある。

### 参考文献

- 1) 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課：新たな「水辺を活かしたまちづくり」が始動、報道発表資料，2021.8
- 2) 樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して、ナカニシヤ出版,2014